

102

680

大正三年度

愛親會會報

附愛親の花

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10¹⁸/_m 1 2 3 4 5

始



特102
680

愛親會規則

第一條 本會ハ舊犬山藩管下ノ者會同シテ舊誼ヲ永遠ニ收ムルヲ主
旨トス

第二條 本會ハ舊犬山藩主家ヲ會長ニ推戴ス

第三條 本會ハ東京、名古屋、犬山ノ三地ニ設ケアルヲ以テ
散在スルモノハ各其ノ望ム所ノ會員タルコトヲ得

第四條 本會ハ各地細則ヲ設ケ會長ノ認可ヲ經テ施行スルモノトス

第五條 本會々員中別ニ壯年會ヲ設ケ學事ヲ研究シ品行ヲ矯正ス之
レヲ犬山壯年會ト稱ス

正
大 3. 14
地 S
内 交

愛親會

東京愛親會規則

- 第一條 本會ハ舊犬山藩管下ノ者會同シテ舊誼ヲ永遠ニ收ムルヲ主旨トス
- 第二條 本會々員ハ世襲トス
- 第三條 本會々員ノ家族ニシテ希望ノモノハ會員タルコトヲ得
- 第四條 本會ノ資財ハ各自ノ義捐ヨリナルモノトス
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
幹事 二名 委員 六名
- 第六條 本會役員ハ毎年一月十七日會員ノ投票ヲ以テ改選ヲ行フモノトス
但シ其任期ハ滿一ケ年トス
- 第七條 本會幹事ハ資財ノ收支決算其他一切ノ事ヲ處辨シ委員ハ臨時主要ノ件ヲ議ス
ルモノトス
- 第八條 本會ハ毎年一月十七日舊藩祖ノ靈祭ヲ行ヒ終テ會長ヘ年首ノ賀詞ヲ述フ
- 第九條 本會ノ集會ハ毎月十七日午後ヨリ會長ノ邸ニ於テ開クモノトス
- 第十條 本會ハ年一回懇親會ヲ開ク
但シ會場其他ノ方法ハ幹事之レヲ報導ス
- 第十一條 本會ハ會員特種ノ名譽ヲ表彰シ又タ非常ノ災厄ヲ救助スルコトアルヘシ
- 第十二條 本會々員中死亡者ニ對シ若干ノ吊慰金ヲ贈與ス

第十三條 會員ニシテ本會ノ體面ニ關スル行爲アルモノハ委員會決議ノ上會長ノ認可ヲ經テ除名ス

第十四條 本會規則ノ改正變更ハ其必要ニ應シ建議スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ會長ノ承認ヲ經テ確定スルモノトス

名古屋愛親會規則

第一條 本會ハ舊犬山藩管下ニ在リシ者舊誼ヲ永遠ニ收ムルヲ主旨トス

第二條 本會々員ニアラスシテ舊犬山藩士ノ者生計ノ目的ヲ缺クトキハ相援引救助シテ其生業ヲ得セシムルヲ以テ本會ノ德義トス

第三條 本會資財ヲ以テ會員ノ非常災厄ヲ救助シ又學資ヲ貸與ス但シ其方法ハ本會附則ニ依ル

第四條 本會々員中壯年輩別ニ集會ヲ設ケ學事ヲ研究シ品行ヲ矯正ス之ヲ犬山壯年會名古屋支部ト稱ス

第五條 本會ノ資財ハ各自ノ醜金ヨリ成ル者ナレハ會員タル者應分ノ義捐ヲ爲シ本會ニ於テ之ヲ保管ス但シ此資金ハ爲替貯金局又ハ銀行へ預置利殖ヲ計ルヘシ其預ケ主名義即チ本會總代人ハ委員會ニ於テ之ヲ指定ス

第六條 本會ハ舊藩主成瀬君ヲ推戴シ會長トシ更ニ左ノ役員ヲ置ク

副會長	一名
幹事	二名
委員	四名
議員	八名

副會長幹事並ニ委員ハ全會員ノ投票多數ヲ以テ之レヲ定ム議員ハ會員ノ住所區別ニ依リ每區投票ヲ以テ一名宛ヲ選出ス其任期ハ各一ケ年トス但シ再任スルモ妨ナシ

第七條 副會長ハ會長ヲ輔佐シ會務一切ノ事ヲ總理シ幹事ハ會員ノ増減貸費學生ノ勤怠金圓收支ノ決算其他一切ノ事務ヲ掌リ委員ハ臨機ノ事件ヲ議定シ議員ハ其重大ノ事件ヲ議ス

第八條 議會ハ委員議員同ク事ヲ議ス議長ハ副會長之ニ當リ議場ヲ整理ス

第九條 委員會及議會ハ半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス議決ハ多數ニ依テ定ム議決ノ上ハ幹事其理由ヲ決議録ニ登記シ出席議事者ノ署名ヲ求ム若此規則ニ違背シタル議決ハ無効トス將々其重要ノ事件ハ特ニ會長ノ認可ヲ經テ施行ス

第十條 春秋二回總會ヲ開ク但シ春季總會ハ舊藩祖ノ神靈ヲ祀リ副會長幹事委員議員ノ改選投票ヲ爲ス

第十一條 春秋總會ノ際本會ノ狀況及金圓ノ出納決算ヲ會長へ報告シ會員ニ公示ス

第十二條 會員中何人ヲ論セス本會ノ利害ニ關シ重要ノ事件ハ直チニ會長ニ開申スル

コトヲ得會長ハ其仕儀ニ因リ之ヲ委員會又ハ議會ニ付シテ議決セシムルコトアルヘシ

明治二十三年四月

名古屋愛親會附則學資貸與法

第一 名古屋ニ在ル處ノ中學程度以上ノ官公私立學校ニ入ルヘキ學力ヲ有スル子弟ニシテ入學研磨ノ志アルモ家貧困ナル爲メ其學資ヲ給スルコト能ハサル者ハ左ノ方法ニ依リテ其學資ヲ貸與ス

學資ト稱スルモノ

一、其學校ニ於テ必要ナル書籍 但現品ヲ與フ

一、其學校費即チ月謝ノ類 但其校ニ對シ減額ノ願ヲ爲シタルトキハ減額ヲ與フ

一、筆墨紙及器具一切 但筆墨紙及器具料トシテ一ヶ月金五十錢ヲ與フ

第二 學資貸與ヲ受ルハ同時ニ於テ一家數人ヲ許サス

第三 學資貸與ヲ分テ三等トス

一等 學資全部 二等 書籍月謝 三等 書籍

第四 貸與ヲ願フ者三等ノ内隨意等級ヲ選フヲ得ルト雖トモ委員會ニ於テ其身分ヲ評

定シ不相當ノ等級ト認ムルトキハ等級ヲ指命シ許可スルコトアルヘシ

第五 貸與スル處ノ學資金ハ卒業ノ上其學術ニ依テ得ル處ノ收利金ヲ以テ年歲ノ利金

ヲ添ヘ本會ニ返償スヘシ

但返償ノ方法ハ其收利金ノ多寡ニ依テ幹事之ヲ定ムヘシ

但卒業ノ上滿五ヶ年以内ニ完納爲サシムヘシ

第六 卒業ニ到ラスシテ半途退校シタルトキハ勿論卒業ノ上タリトモ死亡其他事故アリテ本人ヨリ返償スルコト能ハサル時ハ引受人ヨリ直チニ貸與金ヲ代償セシムヘシ

第七 學資貸與ヲ受クルモノヨリ前條々ノ盟約書ヲ出サシメ且其父兄親族二名以上ノ

保證ヲ要シ別ニ身元相當ノ者ヲシテ引受人ニ立タシムヘシ其盟約書及引受證書等ノ

文案ハ別項ニ在リ

但貸與ヲ爲サントスルモノハ前以テ身元引受人ヲ豫定シ幹事ノ許可ヲ受クヘシ

第八 貸與スヘキ人員ハ本會ノ資金増減アルカ故ニ豫メ之ヲ定ムルコトヲ得サレトモ

其年首ニ於テ其人員ヲ豫定告知スヘシ

第九 貸與ヲ願フ者本會豫定ノ人員ヨリ多數ナルトキハ入學試験ニ於テ得點數ノ多キ

モノヨリ採テ之ニ充ツ若シ點數同等ナルトキハ年長者ヨリ採ルヘシ

但甲乙學校ヲ異ニスルトキハ其甲乙學校ノ各全點數ニ據リ比例ヲ以テ多寡ヲ算出

スヘシ

第十 本會ノ資金増殖スルニ從ヒ他府縣ノ學校及ヒ官立學校ヘ入學スルノ學資ヲ貸與

スヘシト雖モ今本會ノ設立ニ際シ資金頗ル微薄ナルカ故其整頓ノ期ヲ待テ更ニ貸與

ノ方法ヲ定ムヘシ

印紙 盟約書

拙者義名古屋愛親會附則學資貸與法ニ準據シ名古屋(何々)學校卒業ニ至ル迄ノ學資貸與ヲ相受入校可致ニ就テハ在校中該會幹事ノ監督ヲ蒙ルハ勿論卒業ノ上ハ收利ノ事業ニ從事シ總テ幹事ノ命令ニ從ヒ在校中貸與ヲ受ケタル學資金額ヲ辨償可致候且又成業ノ上ハ終身該會ニ對シ盡力スヘキ義務アルコトヲ承諾罷仕候依テ茲ニ盟約スル處如件

明治何年何月何日

受費主

何ノ

誰印

名古屋愛親會員

右父又ハ兄

保證人

何ノ

誰印

右叔父

何ノ

誰印

名古屋愛親會幹事

何ノ誰殿

何ノ誰殿

身元引受證

印紙

名古屋愛親會々員

何ノ誰子弟

何ノ

誰

右ノ者名古屋愛親會附則貸與法ニ據リ名古屋(何々)學校卒業ニ至ル迄ノ學資貸與ヲ相受入校可致ニ就テハ拙者該則ヲ遵守シ其身元引受人ニ相立候ニ付キ若シ本人卒業ニ至ラスシテ半途退校シタルトキハ勿論卒業ノ上タリトモ死亡其他事故アリテ本人ヨリ返償スルコト能ハサルトキハ既ニ貸與ヲ受ケタル學資金額ニ年歲ノ利子相添即時代償可致且又卒業ノ上タリトモ貸與ヲ受ケタル學資金額ハ償盡スルニ至ル迄ハ身元引受ノ義務アルコトヲ承認シタルニ依リ學資辨償方ニ付若シ本人ニ於テ該會幹事ノ命令ヲ履踐セサル時ハ拙者本人ニ成替リ直ニ其命令ニ應シ可申候爲後日身元引受證如件

明治何年何月何日

右何ノ誰身元引受人

何ノ

誰印

名古屋愛親會幹事

何ノ誰殿

何ノ誰殿

名古屋愛親會附則救助法

第一 左ノ場合ヲ以テ非常ノ災厄ト爲ス

一、水火ノ災害ニ遇フテ財産ヲ燒燬シ又ハ流失シタルトキ

一、一家ヲ養育スヘキ者死亡シ遺族老幼ノミニシテ飢餓ニ瀕スルトキ

一、一家ヲ養育スヘキ者長病宿痼ニ罹リ家族飢餓ニ迫ルトキ

一、一家一己身ノ者痲疾危篤病ニ罹リ醫藥ノ資ヲ得サルトキ

一、一家ヲ養育スヘキ者死亡又ハ事故アリテ自然其家族ノ飢餓ニ陥リタルトキ

第二 舊誼ヲ永遠ニ收メントスルニ當テハ將來會員ノ者ニ於テ非常ノ災厄ニ罹ラスト

雖トモ身代漸次ニ消耗シテ終ニ路頭ニ彷徨シ又ハ身體虛弱ノ爲メ營業ヲ妨ケラレ自

然舉家ノ者飢餓ニ號泣シ又ハ世ノ變遷ニ依リ收利ノ事業ニ慣レスシテ遂ニ活路ニ苦

ム等ノ者ナキヲ期ス可ラス斯ル者アルトキニ於テハ情義上尤之ヲ救助セサル可ラサ

ルモノナレハ本會資金ノ模様ニ據リ其一家ノ者ヲシテ事業又ハ工業ニ就カシムルノ

援ケヲ爲シ以テ收利生活ノ途ヲ得サシムルコトヲ勉ムヘシ

第三 會員ノ者死亡シテ其葬式費用ヲ辨スルコト能ハサル者ニ限り吊慰料トシテ相當

ノ金員ヲ寄贈スヘシ

但金員ノ多寡ハ幹事之ヲ定ムルト雖モ三圓ヲ超ユ可カラス

第四 非常ノ災厄ニ罹リタルモノアルトキハ委員會ヲ開キ其災厄ノ深淺及ヒ事實ノ輕

重等ヲ評量シ左ノ區別ニ依テ救助ノ爲メ金圓ヲ與フ

一、入會ノ年ヨリ滿五ヶ年ニ至ルノ間ニ於テ災厄ニ罹リタルトキハ其義捐出金シタル金額ノ一倍半ヨリ少カラス三倍ヨリ多カラス

但非常ノ災厄並ヒ起リタルトキハ二倍ヨリ少カラス五倍ヨリ多カラス

一、入會ノ年ヨリ滿五ヶ年以上滿十年ニ至ルノ間ニ於テ始メテ災厄ニ罹リタルトキ

ハ其義捐出金シタル金額ノ二倍ヨリ少カラス三倍半ヨリ多カラス

但同前三倍ヨリ少カラス七倍ヨリ多カラス

一、災厄ニ罹リタル時迄ニ義捐出金シタル金額ハ無論返付スルモノトス

一、入會ノ年ヨリ滿十年以上ニ至リタル處ノ救助方法ハ其期年ニ及ンテ之ヲ制定ス

ヘシ

第五 第一條第二項以下ノ場合ニ於テ第四條ノ區別ニ從ヒ救助ノ金員ヲ受クルハ勿論

ナレトモ一時ニ之ヲ附與スレハ濫費ノ恐レアルヲ以テ之レヲ防カン爲メ其家族一人

ニ付一ヶ月壹圓ノ割ヲ以テ救助金額ノ消盡スルニ至ル迄毎月之ヲ附與スヘシ但本人

ノ情ニ據リテハ一時附與スルコトモアルヘシ

第六 一度災厄ニ罹リ救助ヲ受ケタル者再ヒ災厄ニ罹リ救助ヲ受クルトキハ先キニ救

助ヲ受ケタル後義捐出金ノ時ヲ以テ年限ヲ起算スヘシ

犬山愛親會規則 (明治二十三年度改正)

- 第一項 本會ハ舊犬山藩士族相援引シテ舊誼ヲ永遠ニ收ムルモノトス
但平民ニシテ從前入會ノモノハ其限ニアラス
- 第二項 本會ノ資財ヲ以テ會員子弟ヘ學資ヲ貸與スルコトアルヘシ
但委員會員ノ決議ヲ以テ履行ス
- 第三項 本會ハ犬山ニ設ケ隔地ニ散在スル會員ハ各望ム所ノ本會ヘ附與スヘシ
- 第四項 本會ハ會員應分ノ義捐金ヲ以テ資財トス
- 第五項 本會ノ資財ハ會員ノ義捐金ヨリ成立スルモノナレハ本會ニ於テ保管ス
- 第六項 第四項ノ出金ハ各自其額ヲ定メ一時限リ若クハ月賦年賦等ヲ以テ出金スルモノトス
- 第七項 會員ハ會費トシテ每會金五錢ツ、出不出ニ拘ハラヌ出金スルモノトス
(備考) 本條五錢ハ目下拾錢ツ、トス
- 第八項 舊主ヲ推戴シテ會長トナシ左ノ役員ヲ置キ事務ヲ整理ス
副會長 一名
幹事 四名
委員 八名
- 第九項 役員ノ任期ハ滿二ケ年トス

- 第十項 役員ハ會員ヨリ撰擇スルモノトス
但幹事ハ委員ノ互撰トス
- 第十一項 副會長ハ本會一切ノ事務ヲ總理ス
- 第十二項 本會幹事ハ資財ノ收支決算其他一切ノ事務ヲ處辨シ委員ハ臨時重要ノ件ヲ議スルモノトス
- 第十三項 委員會ニテ決議シタル事件ハ會長ノ允許ヲ得テ決行ス
- 第十四項 本會ハ舊曆正月十七日同九月十七日舊藩祖ノ例祭執行ノタメ集會スルモノトス (目下會員總會正月十七日一度トナル)
但出席期限ハ正十二時會場ハ犬山神社トス
- 第十五項 (備考) 本條舊曆正月十七日ハ明治四十年度ヨリ新曆一月十七日ニ改正
委員會ハ副會長ノ召集ニ依テ會同スルモノトス
- 第十六項 本會資財收支決算ハ舊曆正月十七日集會ノ節報告スルモノトス
(備考) 本條亦第十四項ノ備考ノ如シ
- 第十七項 會員ハ本會ノ利害ニ關スル事件アルトキハ副會長ヘ提出スルコトヲ得
- 第十八項 本會規則ヲ遵守セサル者ハ會長ノ認可ヲ經テ除名スルコトアルヘシ

細則

- 第一項 義捐金ノ金額ヲ出金セサル者ハ再三督促ス方今赤貧ニ陥ル者ハ此限ニアラス

第二項 會費ハ每會出金ノ事

但右二項ニ違背スル者ハ會長ノ認可ヲ經テ除名スルコトアルヘシ

第三項 幹事二名委員四名ヲ増加シ内幹事二名ヲ撰拔スルコト

(備考) 本條明治二十三年以前ハ

幹事 二名

委員 六名

第四項 會日ハ時宜ニ因リ變換スルコトアルヘシ

愛親會役員氏名

會長 子爵 成瀬 正雄

大正三年度三地役員

東京愛親會役員

幹事 内田 乙

同 横山 武城

委員 松澤 玳三

同 水野 瓊響

同 三井光三郎

同 松澤 鎮

同 小林 新

同 加藤三男朔

以上

名古屋愛親會役員

副會長 諏訪部 弘

幹事 神尾 轉

同 福本 景彦

委員 成瀬 正基

同 千葉 眞青

同 川島勇次郎

同 横井鋼太郎

以上

犬山愛親會役員

副會長 鈴木 光雄

會計幹事 石岡勇次郎

同 石田萬壽見

文幹事 久津美銀次郎

同 太田 庸得

委員 深津 鏞

同 永井九十九

同 横井國太郎

同 小野木 靜尾

同 尾本縁三郎

同 堀部鎗治郎

同 水野 浩

同 石田 久治

以上

東京愛親會記事

大正二年

- 二月二日 會長閣下御出名ニ付幹事松澤鎮氏新橋驛迄御見送セリ
- 二月八日 會長閣下名古屋ヨリ御歸京ニ付幹事横山武藏氏新橋驛へ御出迎セリ
- 二月十七日 例会ヲ開ク出席者六名
- 三月十七日 例会ヲ開ク出席者四名
- 四月十七日 例会ヲ開ク出席者十名
- 五月十七日 例会ヲ開ク出席者十二名
- 六月十七日 例会ヲ開ク出席者十一名
- 七月十七日 例会ヲ開ク出席者十名
- 七月二十六日 會長閣下京都へ御旅行ニ付幹事松澤鎮氏新橋驛迄御見送セリ
- 八月九日 會長閣下名古屋ヨリ御歸京ニ付幹事横山武藏氏新橋驛へ御出迎セリ
- 八月十七日 例会ヲ開ク出席者五名
- 九月十七日 例会ヲ開ク出席者七名
- 十月十七日 例会ヲ開ク出席者八名
- 十月二十一日 秋季懇親會ヲ品川沖舟中ニ開ク會スル者會長閣下ヲ始メ十三名ニシテ漁獲セル魚ヲ肴ニ宴ヲ張リ各自十二分ノ歡ヲ盡シ薄暮散會セリ

- 十一月十一日 會長閣下御出名ニ付幹事松澤鎮氏新橋驛迄御見送セリ
- 十一月十七日 例会ヲ開ク出席者七名
- 十一月二十日 會長閣下名古屋ヨリ御歸京ニ付幹事横山武藏氏新橋驛へ御出迎セリ
- 十二月十七日 例会ヲ開ク出席者十一名

大正三年

- 一月五日 會員杉山友次郎氏死去ニ付本會ヨリ幹事松澤鎮氏遺族ヲ吊問シ吊慰金壹圓ヲ贈ル
 - 一月十五日 幹事横山武藏氏日光御藩祖廟へ御代拜トシテ出發翌十六日歸京會長閣下へ復命セリ
 - 一月十七日 會長御邸内ニ於テ午後三時ヨリ舊藩祖御靈祭執行アリタリ出席者三十六名當日役員改選ヲ行フ其ノ結果左ノ如シ
- | | | |
|----|------|--------|
| 幹事 | 内田 乙 | 横山 武城 |
| 委員 | 小林 新 | 水野 瓊響 |
| 同 | 松澤 鎮 | 加藤三男 朔 |
| | | 松澤 丘三 |
| | | 三井光三郎 |
- 二月十一日 本年七十歳ニ達セル佐藤れい野口金藏小菅貫一八尾成行四氏竝ニ加藤幸三氏(名古屋愛親會員)ハ會長閣下ヨリ御盃及酒肴料ヲ下賜セラル
 - 本期中會員ノ死亡者 杉山友次郎

名古屋愛親會記事

大正二年

十六

- 二月三日 會長閣下御來名相成名古屋驛ニ奉迎セシ會員五名ナリ
- 同 八日 會長閣下御歸京ニ付名古屋驛ニ奉送セル會員四名ナリ
- 三月十九日 會員幡川琢二氏横濱寓居ニテ死去セラル
- 四月二十五日 故會員幡川琢二氏生前本會ニ對シ功勞顯著ナルニヨリ左ノ狀ヲ附シ金五圓ヲ贈與ス

故幡川琢二君

本會創設ニ際シ躬自ラ奔走能ク舊藩士ヲ糾合シテ其創立ヲ完カラシメ爾來委員幹事ノ選ニ當リテ會務ニ盡瘁シ尙副會長ニ當選シテハ勤績十數年一日ノ如ク孜孜忘ラス倦々倦マヌ克ク諸務ヲ統率シテ秩序整々規範肅々愈温舊ノ情湧溢シテ舊藩君臣情誼ノ温煦ナル稀ニ視ル所ノモノタラシム故ニ純誠厚義ノ模範トシテ他藩ノ羨望シ止マサル愛親會ノ名譽ハ君ノ功蹟與ツテ力アリト謂フ可キナリ君今ヤ病ヲ不歸ノ客ト爲ラレシハ會員ノ舉テ痛惜ニ堪エサル所ナリ因テ茲ニ吊慰ノ資ヲ典シ君ノ靈魂ヲ慰ントス 薦薦菲薄ナリト雖トモ會員滿腔ノ赤誠ニ出テタルモノナレハ君夫レ之ヲ諒セラレンコトヲ望ム

名古屋愛親會

- 六月五日 會員稻生惣吉氏死去セラル
- 七月一日 犬山愛親會員味勝正義氏同會退轉本會へ入會セラレタリ
- 同二十日 東京ヨリ大正二年度愛親會報ノ送付アリ因テ全會員へ配送ス
- 同三十一日 會長閣下御來名相成奉迎會員二名ナリ
- 八月九日 會長閣下御歸京ニ付奉送者四名
- 同十九日 會員鈴木廣治氏死去セラル
- 同三十日 會員小鹿壽太郎氏本年一月六日死去セラレシ旨届出アリ
- 十一月二日 會員福島湊氏死去セラル
- 同十二日 會長閣下御來名相成奉迎會員四名ナリ
- 同二十日 會長閣下御歸京ニ付奉送者四名ナリ
- 十一月二十八日 會員野河秀久氏死亡セラレシ由
- 十二月二十日 村木鶴次郎氏ヨリ係ル訴訟事件結末未着ノ處舊名古屋藩士中村修及ヒ會員高木延世兩氏ノ勸解斡旋ニ因リ全部解決相成リ七年間ニ渉ル訴件茲ニ初メテ終結セリ
- 同二十五日 幡川鍊治鈴木鑿田中ふさ福島よしをノ四氏入會セラレタリ
- 一月十五日 稻生榮一小鹿壽吉野河龜次郎ノ三氏入會セラレタリ

大正三年

十七

同

野河秀久

二十

犬山愛親會記事

大正二年

○八月二日 會長閣下御來犬ニ付本町民壯年會員本會員數十名犬山停留所ニ御出迎セシニ特別仕立ノ電車ニ御乗車御機嫌麗シク御來著直ニ凝翠亭ニ成セラレタリ

○八月六日 會長閣下御歸京ニ付貴賓用電車ニ御乗車犬山停留所御出發アラセラル會員等同所ニテ御見送申上タリ

○十一月十六日 本町民壯年會員本會員協同シ成瀬美雄様御來犬ニ付歡迎會ヲ開會セシニ御臨席ヲ辱シ宴會ノ中ニ訓示アリタリ當日出席シタルモノ約百名ニシテ盛會ヲ極メ午後十時過退散セリ

大正三年

○一月十七日 天氣快晴午前十時頃ニ役員及ヒ會員犬山神社事務所ニ參集シ御祭典ノ準備ヲ爲シ尾關一學氏御祭事ヲ舉行シ會員ノ拜禮ヲ了シ撤饌ノ後チ一同凝翠亭ニ集合シ會長閣下ノ御眞影ヲ床上ニ掲ケ拜禮シ終テ御下賜ノ酒肴等拜受シ盃盤歡興ノ間ニ於テ役員半數改選ヲ舉行セリ開票ノ結果左ノ如シ

當選者

委員	太田 庸得	石田 萬壽見	尾本 緣三郎	水野 浩
同	堀部 鎗治郎	石田 久治		
委員ノ互選ヲ以テ右ノ如ク役員當選セリ				

留任者

文幹事	太田 庸得
會計幹事	石田 萬壽見

文幹事	久津美銀次郎	會計幹事	石岡 勇次郎
委員	深津 鏞	永井 九十九	横井 國次郎
			小野木 靜尾

本會ノ會旗ヲ調製シ之ヲ吉凶ノ節ニ使用センコトヲ副會長ヨリ諮問セラレタルニ滿場異議ナク之ヲ可決ス

夕景ニ垂々トシテ會員十二分ノ快樂ヲ極メタルニ依リ會長閣下ノ萬歳ヲ三唱シ退席セリ但シ出席者八十六名

○二月四日 大會根ニ於テ會長閣下ヨリ本年七十歳ニ達シタル村瀬もご(昨年入會ニシテ本年七十歳以上ニシテ年齡經過後入會セルモ思召ニ依リ加入セラレタリ)柳川國次郎尾藤昌章藤村いや小野木靜尾遠藤勇喜ノ六氏ニ御盃並ニ御酒肴料御菓子等御下賜アリタリ

○本期中入會及死亡者左ノ如シ

二十一

入會者
同
死亡者
同
同
同
同

村瀬 とも
服部 つね
二宮 銀次郎
竹端 祿得
渡邊 移
飯田 斧三郎
奥村 熊次郎

舊藩主並御家族

(年齢ハ大正三年二月調)

東京市麴町區下六番町十七番地

成瀨 正雄	明治二年九月九日生	四十四年六ヶ月
夫人 倉子	明治十七年八月十五日生	二十九年七ヶ月
長男 正勝	明治三十九年二月廿五日生	八年一ヶ月
妹 薫	明治十二年三月五日生	三十五年

御分家

神奈川県鎌倉郡鎌倉町字大町二千三百二十一番地

成瀨 美雄
明治五年三月十四日生
四十二年

東京愛親會會員宿所氏名並年齡(順序ハ生年月日ノ順ニ據リ算月ハ本年二月迄トス、大正三年二月調)

宿所	姓名	生年月日	滿年月
東京市四谷區舟町十四番地	鈴木重	天保十一年五月二十三日生	七十三年十月
同 小石川區大和町二十八番地	佐藤れい	弘化元年六月十八日生	六十九年九月
仙臺市片平町六十九番地	野口金藏	弘化元年十一月一日生	六十九年四月
東京市豊多摩郡内藤新宿北裏町番衆町二十二番地	小菅貫一	弘化二年八月十日生	六十八年七月
神奈川縣鎌倉郡鎌倉大町二千三百廿一番地成瀬美雄様内	八尾成行	弘化二年八月廿八日生	六十八年七月
東京市日本橋區濱町三丁目六番地	石川義賢	嘉永三年三月十六日生	六十四年
長野縣長野市横澤町百九十五番地	後藤幸操	嘉永三年十月十日生	六十三年五月
兵庫縣神戸市楠町十八番地	蟹江航平	嘉永四年二月九日生	六十二年一月
東京市麴町區紀尾井町六番地は七十五號	松澤珥三	嘉永五年二月十七日生	六十二年一月
兵庫縣多可郡中村町	近藤良敬	嘉永六年九月九日生	六十年六月
東京市麴町區下六番町十七番地	水野瓊響	安政二年二月六日生	五十九年
東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町八百七十八番地	水野ちよ	安政二年五月五日生	五十八年十月
同 牛込區築土八幡町二十四番地	服部永榮	安政三年三月廿五日生	五十八年
同 牛込區市ヶ谷本村町三十番地	魚住りょう	安政三年九月廿八日生	五十七年六月

宿 所

東京府豊多摩郡代々幡村大字幡ヶ谷八百二十番地
 北海道室蘭町大字澤町證誠寺内
 東京府豊多摩郡内藤新宿北裏町八十七番地
 佐世保市祇園町百三番地ノ一
 東京市日本橋區蠣殻町二丁目九番地
 同 四谷區鹽町三丁目七番地
 同 京橋區新富町六丁目二番地
 同 牛込區新小川町二丁目十四番地
 同 麹町區麹町六丁目十四番地
 同 麻布區新堀町七番地
 同 麹町區下六番町十七番地
 同 麹町區下六番町十七番地
 茨城縣新治郡石岡町百四番地
 北海道室蘭日本製鋼所
 名古屋市東柳町一丁目二百五十七番地
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十四番地

姓 名 生 年 月 日 満 年 月

横山 武藏 安政四年四月十七日生 五十六年十一月
 平尾 徳藏 安政四年六月十五日生 五十六年九月
 加藤 政義 安政四年十二月九日生 五十六年三月
 幡野 穰作 安政五年九月十七日生 五十五年六月
 内田 彌十郎 文久元年十一月廿五日生 五十二年四月
 増田 鉞太郎 文久二年四月十四日生 五十一年十一月
 石原 毛登馬 文久二年六月廿一日生 五十一年九月
 加藤 義清 文久二年十一月廿四日生 五十一年四月
 志村 釵七郎 文久三年十一月四日生 五十年四月
 淺岡 銜治 文久三年十一月十日生 五十年四月
 三井 光三郎 元治元年二月五日生 五十年一月
 内田 乙 慶應元年五月五日生 四十八年十月
 土田 三秀 慶應元年五月十二日生 四十八年十月
 水谷 叔彦 慶應元年十二月廿八日生 四十七年九月
 後藤 喬三郎 慶應二年六月十八日生 四十七年九月
 赤堀 又次郎 慶應二年九月十日生 四十七年六月

二十六

東京府荏原郡品川町大字南品川宿千二十四番地妙光寺
 朝鮮京城壽町三丁目
 臺灣臺中測候所内
 第一艦隊付

東京市京橋區岡崎町二丁目廿五番地住田伊三郎方
 岐阜縣可兒郡御嵩町
 朝鮮京城林町一丁目
 仙臺市片平町六十九番地
 東京市芝區兼房町十二番地
 鳥取縣西伯郡米子町字東町三十番屋敷
 東京市麹町區下六番町十七番地
 神奈川縣横濱市太田町二千二百二十四番地
 東京市麹町區下六番町十七番地
 同 麹町區下六番町四十八番地
 大阪市南區船出町日本皮革會社々宅
 栃木縣上都賀郡鹿沼上田町
 東京市四谷區舟町十四番地

有元 廣賀 慶應三年五月五日生 四十七年十月
 高井 貞治 明治元年一月十一日生 四十六年二月
 藤井 普門 明治元年六月廿一日生 四十五年九月
 鈴木 裕三 明治元年七月十五日生 四十五年八月
 武田 乙一 明治二年六月廿一日生 四十四年九月
 八木 繁四郎 明治二年九月十八日生 四十四年六月
 内田 金作 明治二年十月二日生 四十四年五月
 野口 次郎三 明治二年七月廿四日生 四十四年八月
 山本 鏗 明治三年八月廿七日生 四十四年七月
 大久保 銀男 明治三年十二月一日生 四十三年三月
 松澤 鎮 明治四年八月廿八日生 四十二年七月
 内田 鍾治 明治四年十月十五日生 四十二年五月
 小林 新 明治五年七月廿一日生 四十一年八月
 加藤 三男朔 明治五年十月一日生 四十一年五月
 野口 彌太雄 明治六年一月十五日生 四十一年二月
 辻村 輻 明治六年三月廿七日生 四十一年
 鈴木 行三 明治六年六月廿二日生 四十年九月

二十七

宿 所

神奈川縣中郡南奈野町字今川町一番地
 東京市芝區愛宕町一丁目二番地
 同 麴町區下六番町十七番地
 同 四谷區東信濃町二番地
 朝鮮全羅北道全州東亞煙草株式會社全州分工場內
 支那天津駐屯軍通信部
 東京市麴町區下六番町十七番地
 同 牛込區市ヶ谷本村町十七番地
 大阪府三島郡千里村片山
 東京市芝區三田四國町五番地四號
 愛知縣愛知郡千種町字北畑
 東京府下荏原郡上大崎町字桐ヶ谷百三番地
 東京府豐多摩郡澁谷町字青山北町七丁目二番地
 名古屋市中區鶯谷町
 東京市日本橋區兩國元柳町二番地
 同 麴町區下二番町六十九番地

姓名	生年月日	滿年月
近藤乙六	明治六年八月廿八日生	四十年七月
高島又耶	明治六年十一月十九日生	四十年四月
前島金彌	明治七年十月十八日生	三十九年五月
松澤錦之助	明治九年二月二十日生	三十八年一月
外山石英	明治九年七月十四日生	三十七年九月
境澤 熙	明治十年一月一日生	三十七年二月
玉置佐一	明治十年九月七日生	三十六年六月
近藤 完	明治十年九月十五日生	三十六年六月
伊賀不二男	明治十一年七月二日生	三十五年八月
平尾貞藏	明治十一年七月三日生	三十五年八月
木村久雄	明治十二年三月九日生	三十五年
丸井堅造	明治十三年四月十日生	三十四年十一月
神谷忠雄	明治十三年十二月八日生	三十四年三月
伊賀常人	明治十四年九月廿五日生	三十二年六月
安田柳男	明治十四年十月廿七日生	三十二年五月
服部清久	明治十四年十一月七日生	三十二年四月

支那大連市山城町六番地第十一號十一室
 東京市日本橋區本石町三丁目七番地
 同 麴町區下六番町十七番地
 神奈川縣橫須賀市公郷二千四百三十九番地
 支那上海帝國總領事館內
 東京市芝區田村町二十番地
 姫路衛戍病院
 東京市麴町區下六番町十七番地
 同 四谷區左門町五十八番地
 岐阜縣土岐郡土岐津町
 愛知縣知多郡野間村小野浦
 名古屋市西區車町四丁目三十八番地
 兵庫縣多可郡中村町
 東京市下谷區上根岸町百十番地
 東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町八百七十八番地
 仙臺市片平町六十九番地野口方
 東京府豐多摩郡澁谷町字青山北町七丁目二番地
 地神谷忠雄方

姓名	生年月日	滿年月
水野鐵雄	明治十五年八月十九日生	三十二年七月
中野庸彦	明治十六年一月十三日生	三十一年二月
內田 修	明治十六年三月三十日生	三十一年
上田春治郎	明治十六年三月十八日生	三十一年
菊地政藏	明治十六年九月一日生	三十年六月
高島 一	明治十六年十二月九日生	三十年三月
下山忠温	明治十七年三月八日生	三十年
松岡鉄彦	明治十八年一月一日生	二十九年二月
横山武城	明治十八年六月十日生	二十八年九月
菅沼俊造	明治二十一年五月廿八日生	二十五年七月
菅沼 毅	明治二十三年五月十二日生	二十三年十月
飯田 榊吉	明治二十四年一月七日生	二十三年二月
永田 一雄	明治廿四年四月廿三日生	二十二年十一月
藤村英夫	明治廿六年七月十五日生	二十年八月
水野勝清	明治廿七年十二月七日生	十九年三月
水野軍次	明治廿九年八月十二日生	十七年七月
宮島秀雄	明治廿九年十二月廿一日生	十七年二月

宿 所
居所不明
同
同

姓名	生年月日	滿年月
永井 泉	嘉永四年二月廿五日生	六十三年一ヶ月
北尾 鼎	慶應三年十一月一日生	四十六年四ヶ月
名和 信治	明治十三年六月十八日生	三十三年九ヶ月

名古屋愛親會會員之部

宿 所
名古屋市中區西瓦町七番戶
神戶市小野江通四丁目百六十番屋敷
愛知縣中島郡明治村大字片原一色
名古屋市中區旅籠町十八番地
同 東區相生町四丁目野村藤治方
同 東區鶴重町百四十三番戶
同 東區西谷區鹽町三丁目二十九番地
愛知縣西春日井郡杉村大字杉乙三百四十三番地
名古屋市南區熱田旗屋町甲二百三十一番戶

姓名	生年月日	滿年月
丹羽 漸	天保六年八月二日生	七十八年七ヶ月
堀 百松	天保十一年七月十一日生	七十三年八ヶ月
上田 重次郎	天保十一年九月十五日生	七十三年六ヶ月
小鹿 祐光	天保十二年七月十二日生	七十二年八ヶ月
杉野 つね	天保十三年十月十五日生	七十一年五ヶ月
石原 均	天保十三年十月廿八日生	七十一年六ヶ月
加藤 幸三	弘化元年九月十三日生	六十九年六ヶ月
木全 春時	弘化二年三月廿二日生	六十九年
高木 延世	弘化二年六月十六日生	六十八年九ヶ月

名古屋市東區大曾根町二百三十八番戶
同 東區飯田町百五十二番戶
同 西區車町四丁目三十八番戶
同 東區水筒先町三丁目二十二番地
同 中區新榮町六丁目十二番地
東京市小石川區葉鴨宮下町
名古屋市東區久屋町九十八番戶
同 西區新道町六丁目八番地
同 東區富士塚町三丁目四番地
愛知縣愛知郡御器所村大字廣路
名古屋市熱田旗屋町二百三十番戶
岐阜縣岐阜市住吉町三千四百九十七番地
名古屋市南區中區矢場町六百十四番戶
同 中區南園町二百九十二番戶
愛知縣寶飯郡御津村大字淨野
名古屋市中區住吉町一丁目二十九番地
同 東區東道東町十八番地

姓名	生年月日	滿年月
石黒 金次郎	弘化三年九月十五日生	六十七年六ヶ月
古畑 正脩	弘化三年十一月二十日生	六十七年四ヶ月
飯田 照滿	弘化四年九月二十日生	六十六年六ヶ月
高柳 こご	弘化四年十月二十六日生	六十六年五ヶ月
神尾 轉	嘉永二年三月八日生	六十五年
志水 直	嘉永二年四月二十一日生	六十四年十一月
森島 太米治	嘉永二年四月二十二日生	六十四年十一月
福島 保太郎	嘉永二年五月十日生	六十四年十月
水野 鎬	嘉永二年八月三日生	六十四年七月
諏訪 部弘	嘉永二年十月十五日生	六十四年五月
福本 景彦	嘉永二年十二月一日生	六十四年三月
北川 眞砂	嘉永二年十二月廿六日生	六十四年三月
成瀬 正基	嘉永三年五月十日生	六十四年三月
村上 與起	嘉永三年十月生	六十四年五月
久保 田耕作	嘉永三年十一月十一日生	六十四年五月
平尾 藤内	嘉永四年十二月八日生	六十四年三月
千葉 眞青	嘉永五年六月廿五日生	六十四年九月

宿所

名古屋市中區矢場町一ノ切二十三番戸
 同 東區下堅杉ノ町一丁目二番地
 東京府豊多摩郡東大久保五百六番地
 名古屋市中區南鍛冶屋町四丁目九番地
 同 中區末廣町百三區戸
 同 東區撞木町四十産戸
 同 中區新榮町二丁目四番地
 同 西區南鷹匠町二丁目一番地
 同 東區杉ノ町四丁目
 同 中區大井町十一番地
 同 中區城代町甲十八番地
 愛知縣東春日井郡守山町大字小幡二百八十八番戸
 名古屋市中區元田町一丁目一番地
 同 中區橋町十五番戸
 愛知縣西春日井郡杉村大字西杉三百六番戸
 名古屋市中區杉ノ町二丁目前四十一番戸

姓名	生年月日	満年月
岡田重三郎	嘉永五年十一月生	六十一年四ヶ月
吉田一造	嘉永五年十一月廿四日生	六十一年四ヶ月
中野又次郎	嘉永六年三月十八日生	六十一年
田中鏝太郎	嘉永六年九月廿八日生	六十一年六ヶ月
中野晴光	嘉永六年十一月生	六十一年四ヶ月
鈴木義方	安政元年七月六日生	五十九年八ヶ月
蟹江庄次郎	安政元年十二月十日生	五十九年三ヶ月
神戸直彦	安政二年一月十八日生	五十九年二ヶ月
川島玄つ	安政二年一月廿九日生	五十九年二ヶ月
石原遙平	安政二年六月十七日生	五十八年九ヶ月
武井こご	安政三年三月生	五十八年
箕浦柿治	安政三年四月十日生	五十七年十一月
河野富門	安政三年六月二十七日生	五十七年九ヶ月
奥村留次郎	安政四年一月十九日生	五十七年二ヶ月
外山鎌次郎	安政四年二月二十二日生	五十七年一ヶ月
奥村辰雄	安政四年八月十八日生	五十六年七ヶ月

愛知縣東春日井郡守山町大字小幡三百四番戸
 名古屋市中區下前津町二百四十四番戸
 愛知縣愛知郡千種町字赤塚五百四十五番地
 同 東春日井郡守山大字小幡三百八番戸
 名古屋市西區北野町四丁目三番地
 同 中區中ノ町百八十一番戸
 同 中區矢場町四ノ切十四番地
 同 東區瓦町百十三番戸
 同 東區白壁町一丁目三番地
 愛知縣東春日井郡守山町大字小幡三百一十番戸
 名古屋市東區長堤町三丁目六番地
 同 東區杉ノ町一丁目五番地
 愛知縣八名郡八名村大字富岡安形和助方
 名古屋市西區志摩町
 同 中區松元町三丁目三番地藤井方
 同 中區花園町十一番地
 愛知縣東春日井郡守山町大字小幡三百七番戸

姓名	生年月日	満年月
田中源四郎	安政四年八月十八日生	五十六年七ヶ月
藤村乙女	安政五年二月十七日生	五十六年一ヶ月
赤堀藤太	安政五年二月廿一日生	五十六年一ヶ月
箕浦兼次郎	安政五年十一月十六日生	五十五年五ヶ月
吉田ます	安政五年十月廿四日生	五十五年五ヶ月
河野左金吾	安政六年六月十六日生	五十四年九ヶ月
有元治郎	文久元年三月九日生	五十三年
栢野松次郎	文久二年一月四日生	五十二年一ヶ月
吉原正矢	文久三年三月十五日生	五十一年
淺井銀松	文久三年五月四日生	五十年十ヶ月
小澤初太郎	文久三年六月廿五日生	五十年九ヶ月
山岡琢磨	文久三年九月十日生	五十年六ヶ月
味勝正義	文久三年九月十二日生	五十年六ヶ月
永谷鎗太郎	文久三年九月十八日生	五十年六ヶ月
今井糺	文久三年十二月廿一日生	五十年三ヶ月
川島勇次郎	元治元年四月十五日生	四十九年十一月
淺井捨松	元治元年八月四日生	四十九年七ヶ月

宿 所

姓 名

生 年 月 日

滿 年 月

名古屋市中區東古渡町字中畑七十八番地
京都郵便局
名古屋市西區上仲町十六番戶
愛知縣東春日井郡守山町大字守山乙十三番戶
名古屋市東區長堀町六丁目十番地
愛知縣愛知郡御器所村大字廣路帝室林野管理
局官舎内
名古屋市中區吾妻町六番地
同 中區西洲崎町十五番地
同 中區東川端町九丁目二十一番地
同 中區常盤町三十二番戶
同 西區伊倉町三丁目十八番地
同 東區杉ノ町三丁目四番地
愛知縣東春日井郡守山町大字小幡二千十六番
地ノ一
同 東春日井郡守山町大字小幡二十四番戶
名古屋市東區神樂町三丁目十番地
同 西區袋町一丁目二十二番地

三島榮太郎 元治元年八月十九日生 四十九年七ヶ月
太田喜太郎 元治元年八月廿九日生 四十九年七ヶ月
森島治郎 元治元年九月一日生 四十九年六ヶ月
田中兵次郎 元治元年十二月八日生 四十九年三ヶ月
杉山フサ 慶應元年三月九日生 四十九年
加藤 鎮 慶應二年七月十八日生 四十七年八ヶ月
水野光太郎 慶應二年十一月十九日生 四十七年四ヶ月
小守龜次郎 慶應二年十二月廿一日生 四十七年三ヶ月
水野常準 慶應三年五月二日生 四十六年十ヶ月
岩田虎男 慶應三年五月廿三日生 四十六年十ヶ月
赤堀龜次郎 慶應三年九月廿日生 四十六年六ヶ月
前島重太郎 明治元年五月五日生 四十五年十ヶ月
水野斧次郎 明治元年五月廿二日生 四十五年十ヶ月
永谷鐵太郎 明治元年八月二日生 四十五年七ヶ月
吉田耕造 明治元年九月廿四日生 四十五年六ヶ月
諏訪部さた 明治元年十一月五日生 四十五年四ヶ月

同 東區久屋町一丁目四番地
愛知縣愛知郡愛知町字山王一番地
同 東春日井郡守山町大字小幡二百九十六
番戶
名古屋市東區橫代官町十五番戶
橫濱市根岸町海岸通二千二百二十三番地
名古屋市西區花車町四十八番戶
兵庫縣神戸市下山手六丁目四十五ノ三
名古屋市中區中ノ町百六番戶
同 商區熱田東町字金山五番地
同 中區常盤町十九番地
愛知縣西春日井郡清水町五丁目三百卅三番地
名古屋市西區明道町五十七番戶
同 西區伏見町三丁目五番地
愛知縣東春日井郡瀬戸町丸一屋内
東京市四谷區左門町九十七番地
名古屋市中區常盤町十六番戶
愛知府東春日井郡守山町大字小幡三百五番戶

中村岩太郎 明治元年十二月廿七日生 四十五年三ヶ月
三枝 銚男 明治二年六月廿八日生 四十四年九ヶ月
永谷岩次郎 明治二年十一月二日生 四十四年四ヶ月
横井銅太郎 明治二年十二月廿九日生 四十四年三ヶ月
中村六彌 明治三年六月二十三日生 四十三年九ヶ月
伊藤 定 明治三年九月二日生 四十三年六ヶ月
吉川松次郎 明治四年二月十一日生 四十三年一ヶ月
本多直作 明治四年七月廿一日生 四十二年八ヶ月
濱島 銚治 明治四年五月廿五日生 四十二年十ヶ月
中野與市 明治四年九月二十一日生 四十二年六ヶ月
井戸鉞九郎 明治五年六月十一日生 四十一年九ヶ月
岩井 欽一 明治五年十一月二十九日生 四十一年四ヶ月
横井 一雄 明治六年十月廿八日生 四十年五ヶ月
長谷部 錠太郎 明治七年十月十五日生 三十九年五ヶ月
中川 茂雄 明治八年十一月廿日生 三十八年四ヶ月
村瀬 安治 明治八年十二月二日生 三十八年三ヶ月
大澄清次郎 明治九年三月八日生 三十七年

宿所	姓名	生年月日	滿年月
名古屋市中區蒲燒町二丁目十番地	牧野 敏造	明治九年四月十八日生	三十七年十一月
愛知縣東春日井郡守山町千八百三十四番戶	永谷 惣三郎	明治九年五月十三日生	三十七年十月
名古屋市中區白壁町三番戶	竹山 善三郎	明治十年五月廿六日生	三十六年十月
同 南區熱田旗屋町甲二百三十一番戶	高木 剛	明治十一年一月十八日生	三十六年二月
秋田縣橫手中學校	鶴飼 鎮藏	明治十一年四月廿二日生	三十五年十一月
名古屋市中區正木町百三十七番戶	笹岡 多仲	明治十一年十月九日生	三十五年五月
愛知縣愛知郡下ノ一色村	小池 豐	明治十一年十二月廿二日生	三十五年三月
同 西春日井郡清水町百六十六番戶	森 錠太郎	明治十二年六月一日生	三十四年九月
同 西春日井郡清水町甲三百四十二番地	中野 傳	明治十二年八月廿三日生	三十四年七月
愛知縣東春日井郡守山町大字小幡二百九十番戶	淺井 傳三郎	明治十三年一月二十一日生	三十四年二月
同 東春日井郡清水町三百十番戶	淺井 嘉藏	明治十三年八月十八日生	三十三年七月
同 西春日井郡枇杷島町字松葉	森 乙藏	明治十三年十月二十日生	三十三年五月
名古屋市中區下廣井町三丁目八十八番地	田中 ぶさ	明治十四年四月十二日生	三十二年十一月
朝鮮釜山大廳町四丁目久納重吉方	福島 よしを	明治十四年五月十五日生	三十二年十月
愛知縣東春日井郡守山町大字小幡三百六番戶	箕浦 又三郎	明治十四年八月廿三日生	三十二年七月
名古屋市中區研屋町三丁目九十八番戶	安田 一男作	明治十五年二月五日生	三十二年一月

宿所	姓名	生年月日	滿年月
同 中區東角町十一番戶	雨宮 錦	明治十五年十二月二日生	三十一年三月
同 西區園井町五丁目四番地	野河 龜次郎	明治十六年八月十一日生	三十年七月
東京市四谷區右京町三十四番地	萩洲 立兵	明治十七年一月廿四日生	三十年二月
驅逐艇朝風乘組	柴山 司馬	明治十七年一月十四日生	三十年二月
岐阜縣岐阜市元町五丁目	城 美世若	明治十七年三月三日生	三十年
名古屋市中區桶屋町三丁目十八番地	中島 常久	明治十七年三月七日生	三十年
朝鮮京城東亞煙草株式會社々宅	長谷川 良胤	明治十八年二月廿四日生	二十九年一月
京都市上京區小川通下立賣上ル	松田 暢	明治十九年九月十日生	二十七年六月
岐阜縣土岐郡多治見町多治見郵便局内	小川 英太郎	明治廿一年九月十日生	二十五年六月
名古屋市中區主稅町二丁目四番地	佐藤 良	明治廿二年七月廿三日生	二十四年八月
同 區東芳野町二丁目八番地ノ第一	鈴木 鑿	明治二十三年一月二日生	二十四年二月
朝鮮京城本町二丁目伊藤乙彦方	大野 武彦	明治廿三年一月五日生	二十四年二月
名古屋市中區五藏町二丁目十四番地後藤周吉方	杉山 達弘	明治廿四年十月十日生	二十二年五月
同 東區主稅町四丁目二十九番地	近藤 寛一郎	明治廿五年七月廿二日生	二十一年八月
同 東區富士塚町三丁目四番地	鼻輪 秀雄	明治廿五年八月十九日生	二十一年七月
同 東區飯田町一丁目八番地	小川 よね	明治廿九年八月十一日生	十七年七月
同 西區西萬町三丁目四十番地三輪方	石塚 ふみ	明治廿九年十二月十五日生	十七年三月

宿	所	姓名	生年月日	満年月
	名古屋市中區東川端町九丁目三十一番地	大竹 宮	明治三十二年九月九日生	十四年六ヶ月
	横濱市本牧町九十五番地牧野方	幡川 鍊 治	明治三十四年一月十五日生	十三年二ヶ月
	愛知縣愛知郡愛知町字山王一番地	磯野 幸 一	明治卅五年十一月十二日生	十一年四ヶ月
	名古屋市東區東道東町百十三番地	松尾 幸 忍	明治三十六年一月廿五日生	十一年二ヶ月
	同 東區宮町四丁目一番地	稻生 榮 一	明治四十四年四月二十日生	三年十一ヶ月
	同 中區不二見町百二十六番地	小鹿 壽 吉	大正二年一月二日生	一年二ヶ月
	居所不明	赤堀庄 五郎	弘化四年二月十五日生	五十七年一ヶ月
	同	長谷川 仙次郎		
	同	長谷川 ゆき		
	同	間宮 宗賢		
	同	小島 はる		
	同	朱宮 守雄		
	同	杉山市太郎		
	同	古田 きぬ		

犬山愛親會會員之部

宿	所	姓名	生年月日	満年月
	愛知縣丹羽郡犬山町千四百十六番戸	井戸 安 幸	天保五年十二月廿五日生	七十九年三ヶ月
	同 犬山町字東古券六百四十四番戸	後藤 武 造	天保七年五月七日生	七十七年十ヶ月
	同 犬山町字北古券五十九番戸	永瀬 せ い	天保二年八月八日生	七十六年七ヶ月
	同 三百五番戸	奥田 金 吾	天保九年十一月二十日生	七十五年四ヶ月
	同 百九十五番戸	長坂 誠 意	天保十年十月六日生	七十四年五ヶ月
	同 犬山町字西古券三番地ノ第二	猪谷 さ じ	天保十年十二月十七日生	七十四年三ヶ月
	同 犬山町大字犬山乙千三十五番戸	西川 鉦 次郎	天保十二年十二月廿一日生	七十二年三ヶ月
	同 丹羽郡池野村四十五番地	生駒 虎 五郎	天保十三年二月七日生	七十二年一ヶ月
	同 犬山町大字犬山百八十八番戸	村瀬 じ も	天保十四年二月十二日生	七十一年一ヶ月
	同 千四百八十一番戸	加藤 彌 平	天保十四年七月十六日生	七十年八ヶ月
	同 犬山町千二百八番戸	尾本 縁 三郎	天保十四年十月二十日生	七十年五ヶ月
	岐阜縣本巢郡北方町四百六十五番地	森 勳	弘化元年一月一日生	七十年二ヶ月
	愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山字西古券十八番戸	青木 參 平	弘化元年十一月廿三日生	六十九年四ヶ月
	同 犬山乙八百三十八番戸	柳川 國 次郎	弘化二年一月十四日生	六十九年二ヶ月
	同 犬山千五百八十六番戸	尾藤 昌 章	弘化二年四月十七日生	六十八年十一ヶ月
	同 犬山四百七番戸	藤村 い や	弘化二年六月三日生	六十八年九ヶ月

宿	所	姓名	生年月日	滿年月
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山百七十六番戶	同	小野木靜尾	弘化二年十一月廿六日生	六十八年四月
同	同	遠藤勇喜	弘化二年十一月廿八日生	六十八年四月
同	同	伊神行馬	弘化三年一月二日生	六十八年二月
同	同	山田勝次	弘化三年一月五日生	六十八年二月
同	同	增田りう	弘化三年四月八日生	六十七年十月
同	同	石岡勇次郎	弘化三年五月五日生	六十七年九月
同	同	深津 鑊	弘化三年十月二日生	六十七年五月
同	同	中島光太郎	弘化四年二月一日生	六十七年一月
同	同	江口喜三郎	弘化四年三月十五日生	六十七年
同	同	太田庸得	嘉永元年九月九日生	六十五年六月
同	同	小野木鉦三	嘉永二年二月四日生	六十五年一月
同	同	稻垣すゝ	嘉永二年五月十日生	六十四年十月
同	同	天野鬼四郎	嘉永三年八月十九日生	六十三年七月
同	同	青木鶴治	嘉永三年九月二日生	六十三年六月
同	同	秋野守道	嘉永三年十一月十三日生	六十三年四月
同	同	武山瀧三	嘉永五年六月十日生	六十二年九月

宿	所	姓名	生年月日	滿年月
愛知縣丹羽郡榮村大字赤童子五番戶	同	岡野直方	嘉永五年八月二十三日生	六十一年七月
同	同	横江秀	嘉永五年十月二十日生	六十一年五月
同	同	服部つね	嘉永六年二月十二日生	六十一年一月
同	同	水野浩	嘉永六年三月九日生	六十一年
同	同	石原鉞太郎	嘉永六年五月十四日生	六十年十月
同	同	丹羽たき	嘉永六年五月廿七日生	六十年十月
同	同	天野鐵平	嘉永六年九月廿二日生	六十年六月
同	同	伊藤爲則	安政元年三月十三日生	六十年
同	同	伊藤芳太郎	安政元年四月十日生	五十九年十一月
同	同	榎本舍	安政二年一月四日生	五十九年二月
同	同	鈴木光雄	安政二年三月十八日生	五十九年
同	同	松村鍾太郎	安政二年四月廿四日生	五十八年十一月
同	同	伊賀乘勢	安政二年八月五日生	五十八年七月
同	同	吉田需	安政二年九月九日生	五十八年六月
同	同	石田久治	安政二年十二月七日生	五十八年三月
同	同	陸浦清定	安政三年九月一日生	五十七年六月
同	同	正田安太郎	安政三年十月二十五日生	五十七年五月

宿所

愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山八百一番戶
同 千五十九番戶
名古屋市關鍛冶町一丁目卅三番戶
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山百七十一番戶
岐阜縣羽島郡松枝町大字田代二一五三番地
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山四百四十二番戶
同 千四百六十三番戶
同
同 百九十九番戶
同 二百九十四番戶
同 九百九十番戶
愛知縣丹羽郡犬山町千四百四十九番戶
同 千四百八十二番戶
同 丹羽郡城東村大字今井百四十八番戶
同 犬山町大字犬山千十三番戶
同 千五百八十七番戶

姓名 生年月日 満年月

瀨野尾 繁 安政三年十二月十日生 五十七年三月月
佐藤 春馬 安政五年四月五日生 五十五年一ヶ月
石原 小 安政五年六月八日生 五十五年九月月
本多 駒次郎 安政五年六月十四日生 五十五年九月月
林 錠次郎 安政五年十月六日生 五十五年五月月
森 清藏 安政六年四月七日生 五十四年十一月月
伊東 義久 安政六年五月廿八日生 五十四年十月月
成瀬 誠麿 安政六年十月廿七日生 五十四年五月月
久津美 銀次郎 萬延元年二月十一日生 五十三年一ヶ月
可兒 稻五郎 萬延元年八月十四日生 五十三年七月月
横井 みわ 萬延元年九月十六日生 五十三年六月月
長岡 吉五郎 文久元年八月十九日生 五十二年七月月
玉野 久敬 文久二年三月二十日生 五十二年
中野 周次郎 文久二年七月三日生 五十一年八月月
林 春太郎 文久三年一月十一日生 五十一年二月月
山本 鎗太郎 文久三年一月十五日生 五十一年二月月

同 八百十八番戶
同 犬山町東古券七百二十五番戶
同 西古券五百二十二番戶
岐阜縣稻葉郡前宮村大字前渡千八百七十六番戶ノ第二
愛知縣粟栗郡淺井町
岐阜縣加茂郡下米田村字西脇千二百五十二番戶ノ一
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山一四九四番戶
同 九百九十八番戶
愛知縣丹羽郡犬山町
同 犬山町大字犬山乙四百十四番戶
同 犬山千二百九番戶
同 犬山町大字犬山

臺灣臺北西門外街一丁目
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山八百十六番戶
同 額田郡岡崎町大字康生町三三三番戶
同 丹羽郡犬山町大字犬山八百十七番戶
同 千四百六十二番戶

岡田 せい 文久三年四月三十日生 五十年十一月月
近藤 要 元治元年九月十日生 四十九年六月月
日比野 鉢丸 元治元年十一月廿三日生 四十九年四月月
若井 篁 慶應元年三月四日生 四十九年
深津 利充 慶應元年四月十八日生 四十八年十一月月
渡邊 弘音 慶應元年五月二日生 四十八年十月月
平林 米次郎 慶應元年九月八日生 四十八年六月月
近藤 彌五郎 慶應元年十一月廿二日生 四十八年四月月
高田 慶次郎 慶應二年一月十六日生 四十八年二月月
吉田 章 慶應二年六月廿三日生 四十七年九月月
駒林 幸次郎 慶應二年六月廿七日生 四十七年九月月
永井 九十九 慶應二年八月廿二日生 四十七年七月月
服部 鐵彌 慶應二年十二月九日生 四十七年三月月
今井 定次郎 慶應三年一月六日生 四十七年二月月
永瀬 剛夫 慶應三年三月十日生 四十七年
小野 木勘治 慶應三年十月三日生 四十六年五月月
高木 松太郎 慶應三年十一月十一日生 四十六年四月月

宿所	姓名	生年月日	滿年月
愛知縣中島郡起町	後藤辰一郎	明治元年一月八日生	四十六年二月
同 丹羽郡犬山町八百六十一番戶	前田季雄	明治元年四月廿八日生	四十五年十一月
廣島縣吳市高等女學校內	三上磯次郎	明治元年四月廿九日生	四十五年九月
愛知縣丹羽郡犬山町字西古券十三番戶	小出をわ	明治元年五月八日生	四十五年十月
同 犬山千四百五十六番戶	井戸孝太郎	明治元年七月十日生	四十五年八月
同 犬山町大字五郎丸六十七番戶	今井龍彌	明治二年四月六日生	四十四年十一月
同 扶桑村大字齋藤	八神たま	明治二年五月十三日生	四十四年十月
同 犬山町大字犬山字西古券四百十三番戶	日比野 斧太郎	明治二年六月十日生	四十四年九月
同 犬山七百七十七番戶	下山 茂彦	明治二年八月十八日生	四十四年七月
朝鮮元山府本町四丁目番外ノ十三	村主隆左右	明治三年五月八日生	四十四年十月
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山字南古券二百四十八番戶	橫井國太郎	明治三年五月廿八日生	四十四年十月
同 犬山千五百八十五番戶	木俣攝太郎	明治三年七月三日生	四十四年八月
富山縣富山市西大工町二十番地	石原 延雄	明治三年七月十九日生	四十四年八月
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山千三百卅七番戶	森 潤藏	明治三年七月廿八日生	四十四年八月
同 海東郡津島町字今市場	板津森三郎	明治四年六月十九日生	四十二年九月
名古屋市西區新町二丁目通	神尾 榮	明治四年一月四日生	四十二年四月

宿所	姓名	生年月日	滿年月
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山八百三十四番戶	石田萬壽見	明治五年四月十八日生	四十一年十一月
同 五百九十七番戶	淺井堅次郎	明治五年四月廿四日生	四十一年十一月
同 犬山町大字橋爪百十六番戶	井戸 虎友	明治五年五月廿一日生	四十一年十月
同 千六百三十番戶	天野鬼捨子	明治五年九月廿三日生	四十一年六月
同 千四百九十六番戶	安田 捨丸	明治六年四月一日生	四十年十一月
同 犬山字東古券四百七十番戶	村田水穂作	明治六年九月三十日生	四十年六月
同 犬山町字南古券百六十四番戶	石田 ひろ	明治六年十一月廿六日生	四十年四月
同 二百六十七番戶	黒田 重雄	明治六年十二月五日生	四十年三月
愛知縣豐橋市	尾藤始一郎	明治六年十二月廿四日生	四十年三月
同 丹羽郡犬山町大字犬山四百十八番戶	横江 末男	明治七年三月二十二日生	四十年
同 八百七十二番戶	近藤義太郎	明治七年三月卅一日生	四十年
支那大石橋憲兵分遣所	堀部 經彦	明治七年五月廿三日生	三十九年十月
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山東古券四百八十五番戶	增田直太郎	明治七年七月廿四日生	三十九年八月
同 犬山町大字犬山百六十七番戶	堀部 鎗治郎	明治七年十月廿六日生	三十九年五月
同 南設樂郡新城町乙五百四番戶	原 乙三	明治七年十一月廿八日生	三十九年四月
同 丹羽郡犬山町大字犬山六百三十六番戶	森島八十吉	明治八年七月十二日生	三十八年八月
同 犬山町	渡邊 瓊樹	明治八年八月廿五日生	三十八年七月

宿 所

姓 名 生 年 月 日

滿 年 月

四十六

岐阜縣加茂郡八百津町四千二百廿二番ノ一	瀨木直三郎	明治九年六月十六日生	三十七年九ヶ月
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山千六百廿五番戶	淺野常治郎	明治九年九月十八日生	三十七年六ヶ月
同 犬山字東古券五百五十一番戶	古池善太郎	明治十年四月十日生	三十六年十一月ヶ月
同 犬山字西古券三百二十六番戶	森島賢二	明治十年五月三十日生	三十六年十月ヶ月
同 七十四番戶	松岡茂夫	明治十年六月十四日生	三十六年九月ヶ月
岐阜縣可兒郡御蓋町東濃中學校内	岡田重作	明治十年十二月二日生	三十六年三月ヶ月
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山東古券七百七十番戶	秋野德助	明治十一年十二月八日生	三十五年三月ヶ月
東京府下中澁谷六百二十二番地	本多重平	明治十二年十月二日生	三十四年五月ヶ月
愛知縣丹羽郡犬山町字東古券六百八十五番戶	有我良方	明治十二年十月廿八日生	三十四年五月ヶ月
橫須賀市楠ヶ浦四十五番戶	眞野謙次郎	明治十三年三月二十日生	三十四年
愛知縣丹羽郡犬山町字東古券七百十九番地	宮田錠吉	明治十三年七月二十四日生	三十三年八月ヶ月
同 犬山町	杉山重太	明治十三年十二月十七日生	三十三年三月ヶ月
同 犬山町東古券五百八十三番戶	谷金七	明治十五年四月廿五日生	三十一年十一月ヶ月
同 犬山字西古券四十二番戶	川島養吉	明治十五年十月一日生	三十一年五月ヶ月
名古屋市入江町三丁目四番地	有我久吉	明治十六年四月八日生	三十年十一月ヶ月
愛知縣丹羽郡犬山町大字犬山一四八九番戶	長瀬久吉	明治十七年七月廿三日生	二十九年八月ヶ月

名古屋市外千種町字西裏九十六番地	内藤敬信	明治十七年八月七日生	二十九年七月ヶ月
支那大連市西公園ヤ區三十一號則本方	天野東	明治十七年十月廿五日生	二十九年五月ヶ月
愛知縣丹羽郡犬山町字東古券三百三十八番戶	山本逸彦	明治十八年十一月廿四日生	二十八年四月ヶ月
同 犬山字西古券百七十二番戶	岡田六四郎	明治十九年七月七日生	二十七年八月ヶ月
同 犬山八百八十番戶	池田久吉	明治二十年五月六日生	二十六年十月ヶ月
佛領南洋タチヒ群島マカテア島東洋移民會社事務所内	河野友愛	明治二十年十二月一日生	二十六年三月ヶ月
愛知縣丹羽郡犬山町字南古券二百一十一番戶	清水武男	明治二十一年五月十二日生	二十五年十月ヶ月
同 犬山三百六十五番戶	伊藤新二	明治廿一年七月廿三日生	二十五年八月ヶ月
同 八百六十六番戶	岡田しな	明治廿二年九月十四日生	二十四年六月ヶ月
同 犬山町	前田眞太郎	明治廿四年二月廿日生	二十三年一月ヶ月
同 岩倉町甲三百一十一番戶石黒藤吉方	朱宮増吉	明治廿五年七月廿五日生	二十一年八月ヶ月
同 犬山町八百一十一番戶	瀨野尾衡信	明治廿六年七月十一日生	二十年八月ヶ月
同 犬山町大字西古券二百九十一番戶	小出憲	明治廿七年二月十五日生	二十年一月ヶ月
名古屋市車道東町六丁目	青木とさ	明治廿八年十二月四日生	十八年三月ヶ月
愛知縣丹羽郡犬山町字西古券三百七十八番戶	企森敏雄	明治卅一年三月廿四日生	十六年
同 犬山千番戶	松澤公平	明治卅一年四月一日生	十五年十一月ヶ月
同 犬山町四百十三番戶	小野好成	明治卅二年六月六日生	十四年十月ヶ月

宿

所

姓名

生年月日

愛知縣丹羽郡犬山字南古券二百六十一番戶

加藤四郎

明治卅四年八月二十日生

十二年七ヶ月

會員合計三百六十名

外ニ居所不明者十一名

内譯

東京之部

八十名

外ニ居所不明三名

名古屋之部

百三十一名

同 八名

犬山之部

百四十九名

(名古屋犬山所屬會員ニシテ東京横濱等ニ在住者ヲ茲ニ再録ス)

東京市四谷區鹽町三丁目九番地

加藤幸三

同 小石川區巢鴨宮下町

志水直

東京府豊多摩郡東大久保五百六番地

中野又次郎

東京市四谷區左門町九十七番地

中川茂雄

東京市四谷區右京町三十四番地

萩洲立兵

神奈川縣横濱市根岸町海岸通二二三番地

中村六彌

同 横濱市本牧町九十五番地牧野方

幡川鍊治

以上名古屋所屬會員

東京府下中澁谷町六百二十二番地

本多重平

以上犬山所屬會員

愛
親
の
花

會員諸氏に告ぐ

大正四年度『愛親の花』の投稿締切は大正四年
一月三十一日限りに有之候間同時期迄に遅
延無之様御投稿有之度候

大正三年七月

東京
名古屋
犬山

愛親會幹事

愛親會會長子爵成瀬正雄

潔き枝に情の花をつけ

武家か子孫の味示してよ

文集

○所感

東京 横山 武藏

古言に義は人の正路なり、又軍有義即ち勝つ、夫れ義は人の踐むべき正道なり、然るに處世の間往々慾心の爲に掩はれ、正道を踏まざるが如し、古へより義を守り事に臨み時に應じ己れを知る人の爲めに難行をも避けず遂行し來り、克く其の難事を成し遂げたるは尤も武士に多しとす、如何となれば人の教育と境遇に大なる關係ありて歸する所、人世は生と死の二つにありて諸般の事皆之より起ればなり、云ひ易く行ひ難きは正道にして古人の成した事蹟を見るときは、後世の模範となる事多し、元來日本人は事に臨み難行を避けざる性質あるは國民の特色なり、苟も義を守とし信を盡したる事蹟は吾人の等しく感ずる所にして、過る文久年間に神奈川生麥に於て外國人を邦人が殺したる事ありき、外國人は幕府に向て之れを責問す、幕府其の犯人を捕へて責問使の目前に於て割腹せしむ然るに責問使は邦人の割腹せんとする態度を見て、止めしことありと聞けり、己の信ずる事に死するは歸するが如く思爲する信念なり、外國人も始めに當りて日本人は人道を無視する殘忍なる者と思考せしも、其後追々國內の事情も分明し、國民の信義篤きを知り、或は高輪泉岳寺に赤穂義士の墓を訪ひ、或は義民の事蹟を尋ね各所の墳墓に

到り、其人の履歴を問ひて大いに日本人の氣性を研究せり、古へより武事に付ては勇敢にして内心は友情深く、又常に詩文歌道を學び温和なる事を表し、手藝を嗜み優美なる心あり、一見決斷心なきが如くなれども、決して然るに非ざるなり、之れが倭魂の源にして各人の自から備はる所なり、即ち時に應じ事に臨み決行したる事蹟は人道の花にして、彼の鬼將軍と云はれたる加藤清正も、決して鬼の如き行爲のみならずさりしなり、干戈を用ゆる場合に於て強きを見て鬼人の如しと懼れたればなり、如斯清正も義の爲には屢々死せんとせし事ありしと聞けり、明治二十七年浪花艦が支那黄海に於て支那兵士を朝鮮へ運送する支那艦隊に會し、艦長東郷平八郎氏未だ開戦の命令に接せざるも、若し之れを討ちて責あれば東郷一人に引受割腹するときは相濟むべしと云ひて、之れを討ちたりとなり、是れ日清戦争の當始の出來事にして決斷の宜を得たり、其後日露の役には東郷は世界的人物なりと評せらる、此東郷大將も平素は至て温順なる人也、又旅順の城壁を開鑿したる乃木大將も、其内心の優しき事は之れ吾人日本人の特色と謂ふべし亦商業家の大倉喜八郎氏の如き、商業には鋭く人も恐るゝ人なれども内心は優美なり、或除幕式の時同氏の歌を見るときは誠に優美なる心を表するなり其歌に「うれしくもおもひかけなき事はかり覺ぬ夢路をかたる夢の世」邦人は乍ち鬼なり又菩薩となる性質あり之れあるが故に忠君愛國の念慮深きは、大和民族の特性と謂ふ可し嗚呼世は移り形變れども義は正路なり、處世の要は事に臨み心を離れず之れを行ひ、又友人間にありては信を盡

し花の如く優美ならんことを思ひ、聊か事跡を陳述して之れか所感を記す。

詩集

○早春訪友

名古屋 北 川 眞 砂

城門纔出總梅花。遠郭近村灑彩霞。不捲吟行三十里。暗香影裏到君家。

○東濃途上

梅花零落雨餘村。春水漲田半帶渾。家鴨貪遊入欄晚。一鉤新月照黃昏。

○西濃所見

和風十里送輕舟。三寸香魚遡急流。眼界料知時節好。桃花春暖古濃洲。

○雨夜聞鵑

水晶花白壓庭垣。雲渡天心月影昏。起倚欄頭青欲滴。杜鵑啼過雨中村。

○題山水圖

江雨晴來送晚涼。遠山浮紫近山蒼。瞥看天外茫茫處。之字風帆趁夕陽。

○盆竹

移苔添石費工夫。綠竹一盆耐愛娛。半勺清泉露不足。風晨露夕養庭隅。

○初秋羈中作

他鄉爲客爰三秋。難遣遊人萬斛愁。切々歸心孤月夕。西風鴈過古濃洲。

○蘇水晚望

香魚潑刺晚煙浮。萬頃金波一葉舟。舟子未擔輕棹去。滿川明月滿江秋。

○暮秋遊山寺

晝靜山門人跡稀。此間忘却世情非。白雲深鎖丹楓寺。眉雪禪僧踏錦歸。

○遊浣花溪即事

在大山白帝城東北半里餘蘇水之南岸

千尋溪底水潺湲。斷崖鳶鷲霜後鮮。夕日鐘聲雲外寺。幽人未欲出人間。

○晚秋所見

密竹疎松傍江濱。一碧溪流兩邊分。野畦淡白蕎麥雪。田圃深黃禾穗雲。

橋外水春綠岸響。村中社鼓隔林聞。群鴉遊倦歸栖處。回首前峯日已曛。

○秋江夜泊

斷鴻呼友過前洲。四望無人舊渡頭。夜半蓬窓風月苦。芦花若雪灑輕舟。

○詠菊

菊近重陽爰益加。竹欄紙障爲成家。滿叢映出黃金色。富貴名翻在此花。

○野菊

亂髮粗衣携一瓢。平郊十里醉逍遙。依稀野菊花狼藉。不似吾生愧折腰。

○園基

沐雨櫛風兩虎爭。臨機應變出精兵。請看白手新奇計。九死期來得一生。

○雪意

凍雲深鎖遠鐘聲。坐覺奇寒入夜生。應是翌朝天欲雪。中庭若有鶴鳴。

物類相思鶴鳴爲雪姑鳴則天當大雪

○雪曉

六出紛紛曉漸晴。江山十里白平々。寒鴉躑落松梢雪。地上忽然碎玉聲。

○除夜書感

沐雨櫛風走世塵。豈知詩酒老精神。半生何事唯夢過。迎得明朝八八春。

○偶感時事有此作

名古屋 小守 久康

相互寄與須是人。絕乎孤獨誰看隣。何荆棘竟無花果。施彼分明反此身。

○歲晚記事

鶴髮銀鬚老益恣。豚兒孝養室家新。致來天國心惟豁。竭盡愛神兼愛人。

○偶成

天工付自然。妙理攝治鮮。鶴舞千年樹。龜游萬丈淵。

○追悼幡川琢二兄

眼花爭得了。憂々豈無明。舊夢茫茫矣。池塘春草生。

○讀大正二年度愛親會報謹賦

犬山 伊賀 乘勢

唐犬頭巾凜厥丰。當年意氣欲屠龍。常期一死酬君國。何顧猿郎五萬封。

○呈村瀨太乙先生（舊作） 犬山 久津 美銀 次郎

常慕我師文學深。日携青史且幽尋。莫嫌吾輩苦多問。竊恐先生遺德音。鐘鼓爰居雖恥意。蒼蠅驥尾有期心。講筵自覺龍光在。危坐逡巡一整襟。

孝武將講孝經。謝公兄弟與諸人私庭講習。車武子難苦問謝。

謂袁羊曰。不問則德音有遺。多問則重勞二謝。云々。

三四句中用此語。

○呈八木萃堂先生（舊作）

未曾得接聲款榮。竊仰高風慕先生。先生或應不知我。對不知我垂懇誠。温厚篤實真如此。不似世人薄又輕。素朴不飾吾語拙。愚直不藏披服呈。

萃堂曰。卜者見墨色知吉凶。多年拜誦高吟。雖無一面誠。豈不知君之赤誠乎。

又曰。蒙過獎。不堪慙愧。

又曰。賜荆山之璞。感謝々々。

○奉和成瀨松柏公甲寅試筆芳韻 犬山 尾藤 昌章

老後迎年樂益深。寫山畫水又多吟。終生弄筆無人事。黃鳥報春洩好音。

○社頭杉

風拂靈園旭日清。老杉聲送玉琴聲。神宮翼之新年曉。秀色先看證太平。

○古稀述懷

遠山殘雪占春風。椒酒今朝七十翁。恥向梅花動一醉。依然吳下舊阿蒙。

○犬山城

尾北乾山白帝城。風光如畫四時清。春花秋月又冬雪。檻上一眸千里程。

○月下探梅

携瓢曳杖探香來。獨木橋頭先舉盃。一醉詩成無限趣。寒光月下踏明回。

○戊辰歲予在京師迎春干時有伏見役（舊作）

兵馬東西南北奔。開春猶未倒芳樽。宮門今日脫朝服。翻着戎衣獲帝閤。

○盆梅

寸餘得土此相移。一樹冰魂巧吐奇。窓下如今風雪際。北枝猶不異南枝。

○宿太田驛太田驛在蘇水沿岸

紗城容月臥。夢駭夜三更。窓外風歟雨。潺湲蘇水聲。

○酒醒

布衾寒徹五更辰。宿酒初醒覺渴頻。此味傍人非可察。一鐺殘水美於醇。

○冬至

雲邊宿轉一陽回。先拂黃書架上塵。雪意窓前融作雨。蕭々好是澣寒梅。

○寒月照梅花

沈々人定夜三更。風拂纖塵月色清。佇立思詩天似水。白梅花發滿庭明。

八

歌集

○勅題社頭杉

名古屋 北川 眞砂

幾代へてかくまてふとくなりにけむいかきに高き神の大杉

○新年をりにふれて

我齡子らにとはれておゆひをりかそへみるまで老にけるかな

○新年宴會

雲の上につふきこしめす大御酒のなかれをくまぬやこやなからむ

○堤柳

若草のもゆる堤の春風になひくけふりは柳なりけり

○原雉子

雨はれて風なほ寒きかた岡のあしたの原にきぎす鳴なり

○野雉子

しつかなる野もりか家になれくして軒はちかくも鳴きかはすかな

○海上霞

眞熊の、鯨しほふくあら海ものどかにみえてかすむ春かな

○河邊霞

のどかなる淀川堤ひくものは舟の綱手と霞なりけり

○社頭霞

みしめ繩なひく風たになかりけり

○野殘雪

消のこる雪をしみれは梓弓春のいたらぬ野へもありけり

○霞中柳

のどかにもかすむゆふへは青柳のかたよるほどの風たにもなし

○渡柳

わたしもりゆふけたくかどみゆはかりけふるはきしの柳なりけり

○馬上見花

乗る駒の手つなゆるへてものゝふも花の木かけはいそかさりけり

○盛花

いさやいさたゆたひなしに見にゆかむ花のさかりをけふときゝては

○霞中落花

九

佐保姫の霞の袖のほころひをもらて散りくる山さくらかな

○社頭落花

吹かせの絶まも花は散りにけり神の御前のあらこもの上に

○首 夏

すゝしくもみゆる妻やの青すたれかけて風まつ夏はきにけり

○首 夏庭

しら櫳の古葉こほるゝ庭のおもに風なつかしき夏はきにけり

○山家卯花

燈火の影みえなから山里のうの花かきはくれむともせず

○新 竹

世の中のうきふしもまたしらさらむ今年おひたる窓の若竹

○未聞時鳥

葵草かさすころより心にはかけれどきかぬ初ほとゝきす

○餘 花

谷川の橋のあなたが遅さくら夏にわたりて盛りなりけり

○山家梅雨

山里の軒はにつみし蒨柴もしめりはてたるさみたれの雨

○をりにふれて

いつまでも若くいますごあふ人にいはるゝ老となりけるかな
あるときはあらずもかなとおもひしに老ては子こそちからなりけり
子にわかつものごと更になかりけり書よこしたるほこのみにして
酔たれははやのまれすといひなからなほ杯をうくるなりけり

○心

さまゝにおもひしことのひとつたにかなはて老となりけるかな

○戀妨學問

戀草のしけれるまゝにいつしかと學ひの窓のくらくなりけり

○寄扇戀

人こゝろいつ秋かせの立ぬらむならず扇のおとつれもなし

○新年梅

幸くさをそへてかきりし鉢うゑのうめ咲にけりとしのはしめに

○急 早苗

うゝる日にかきりのあれはおのつから早苗とる手のいそがるゝかな

○秋 霜

にはかにも秋風寒く身にしみてけさめつらしく霜置にけり

名古屋 小 守 久 康

○冬 祝

杉なりに米積あけて賤の男か冬こもりする御代そゆたけき
事なくて今年も暮しうれしさにこゝる祝ひのうたけをやせん

○迎年會

名古屋 成 瀬 正 基

つとひしてくたけし魂をさけつゝいのりのうちに年は來にけり
いのりして家路にたさる友とちにさちおほかれと我はいのれり

○早春の雨後

雨晴れて枯野はるかになかむれはあをくも見ゆる春の若草

○述 懷

くちいふて身の行なひにもとりなは誠の道も世の仇となる
かたよりていさをたてし人もありあるは囚ひとごにうこめくをきく

○偶像教

影をたに誠と思ふ人こゝろいかて誠を誠とはせむ

○山寺花

名古屋 神 尾 轉

法の師は箒を止めて初瀬山花のゆかりを説きてけるかな

○竹間夏月

起きふしのしけき若竹風みえて晴れくもりする夏よの月

○秋 興

秋草をからの瓢に持ち添へつ半はおとして歸るをかしき

○枯野薄

千草みな枯野の原の花すゝきはのかに残る秋のおもかけ

○折 句

やまあそび

やよ子等よ誠の道をあゆみ行きて虚言いはぬ人ところなれ

○盲人摘草

香を認めて春の野探くる盲人の摘み得し草は蓬なりけり

○夜鶴拂霜

名古屋 上 田 重 次 郎

あしたつの羽根うち拂ふ聲すなり松の夜落や霜となるらん

○静見花

花くもりやかても雨になれるひはとふ人もなく家櫻かな

○窓春雨

心地よく窓にねふりてきくものはしつかなるよの春雨の音

○名古屋にありて従弟某氏の妻病氣危篤の報に接し

到れば既に木魚の音をきいて

おもひきや力なき此ともし火に御佛となふ聲きかむとは

○夏 瀧

鐵もどけむとすなる夏のひに空より落るみねの大瀧

○古寺杜鵑

卒塔婆垣やれしひまよりあはれにも一聲つたふ山ほとゝきす

○詠 史

望月のかけたることのなかりしも桂の枝や折そわつらふ

○山家初秋

はたすゝきほに出しより月かけのさやけくなりぬ山かけのいほ

○蝸 牛

家居迄春負はこひてあそひけり蝸牛こそ心やすかれ

○水郷卯花

水けふりたつと見えしは玉川の里のかきねに匂ふ卯の花

○雨 蛙

朝嵐吹もいとほす雨蛙ほつえわたりて雨をよふ哉

○盲人妻

人並に見ることかたき其つまのあはれかなしむ月花のをり

○垣朝貞

垣ねゆく水に涼しくうつりけり咲あまりたる朝かほの花

○樹上猿

あした三つ夕には四つの餌をよそに木の實をあさる親猿あはれ

○某氏大廟に参拜し五十鈴川の水をたつさへ歸られて其分配を受て

五十鈴川絶へす流るゝ大御代のかきりなき迄すみまさるらん

○寒 鴉

木枯に吹かれ流るゝからすをは見るさへ寒き夕くれの空

○古稀述懐

七十路も重てうれしと思ふうへに尙ありかたき君かたまもの

○城山に孔雀石と名くる大石あり人に尋つねられて其説明にくるしみければ

としふりし我も名しらす孔雀石この城山にふるくあれども

○城山の四季のけしきをよめる

春は花夏は木曾川うかいふね秋は紅葉に冬は雪なり

○城山凝翠亭に住みて

春は花夏は木曾川うかいふね秋は紅葉に冬は雪なり

○城山凝翠亭に住みて

春は花夏は木曾川うかいふね秋は紅葉に冬は雪なり

家の事皆うちすて、城山の木影に住も楽しかりけり
世のちりをはなれてひとり城山の翠の亭に住そよろしき

○雪中白帝城にのほりて四方のけしきをみて

野も山も里も人家も眞白にて云ふにいはれぬけしきなりけり

○城山凝翠亭に宿して

獨寐の淋しき夜半を誰やらん喜六くこよふ聲のする
城山の木立の中に聲するをきゝわけみれば喜六なりけり
城山にひとり淋しく寐たる夜は喜六の外によふものもなし

○落葉

はけはちりちれば又ははく庭守の憩ふ日もなき秋の暮かな
はるくと雲を凌ぎてみはたせは都一目にみえわたるかな

○東京なる淺草の凌雲閣にのほりて

○凝翠亭の廣庭の籬にだりやくすもすの花盛りに咲き

ければ

ゆいまはす庵の籬に咲匂ふだりやくすもす花盛りなり

○城山の楓の紅葉盛りなりければ

うるはしき楓の紅葉盛りにて人立ち多くなれる城山

終